

Shudai
Hyakkei

修 大 百景



広島修道大学

No.221

2023 SUMMER

特集
1

広島修道大学×G7広島サミット

特集
2

2023ひろしまフラワーフェスティバル
広島修道大学ひろば&さつきステージ

吉田拓郎 歌碑

設置場所



本学卒業生で在学中から音楽活動を始め、全国的に著名となった吉田拓郎氏(広島商科大学卒業)の活躍をたたえとともに、在学生および卒業生の活力の一助とする目的のもと建立されました。歌碑には、「今日までそして明日から」の歌詞とともに、吉田拓郎氏の写真やプロフィールなどが記されています。

歌碑建立は、2010年に本学が四年制大学として開学50周年を迎えるにあたり、50周年記念事業の一つとして、ご本人の同意や学内外の多数の関係者の協力・助言を得て実現しました。2008年8月2日の除幕式には吉田拓郎氏も参加し、卒業生や全国から駆け付けたファンら約800人が参加しました。

本誌へのご意見などありましたら、下記までお寄せください。
本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。

広島修道大学公式SNS

@shudo_u

@shudo_university

@shudo_university

@HiroshimaShudoUniversity

●TRUTHバックナンバー



広島修道大学

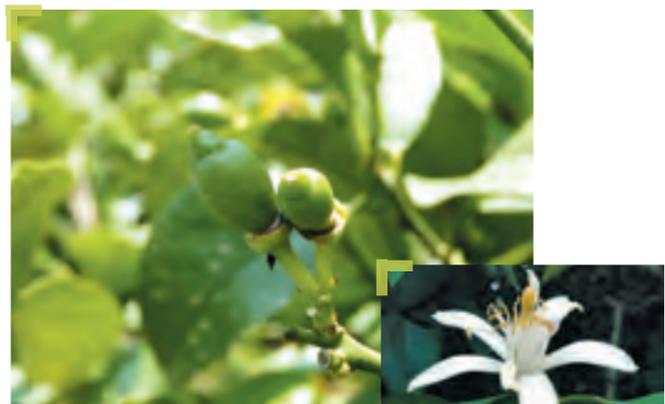
学長室総合企画課

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
TEL 082-830-1102 FAX 082-830-1324
WEBサイト <https://www.shudo-u.ac.jp/>



contents

- 3 **特集1** 広島修道大学×G7広島サミット
G7広島サミットでの学生の活躍
ボランティア活動
各イベント・プログラム
G7広島サミットを終えて 学生座談会
- 8 **特集2** 2023ひろしまフラワーフェスティバル
広島修道大学ひろば&さつきステージ
- 10 未来への探求
徐 康勲 准教授 商学部
- 12 修大人の飛翔 -活躍する卒業生
竹増 浩司さん ラクサス・テクノロジーズ株式会社
- 14 修大人 -在学生紹介
松長 明音さん 健康科学部心理学科3年
- 15 サークルインフォメーション
ピックアップサークル
- 16 Shudo×SDGs
広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業 空き家対策活動
平和学習教材作成
- 17 海外留学記
安部 直人さん 国際コミュニティ学部国際政治学科3年
- 18 Campus News
- 20 INFORMATION
- 24 修大百景
吉田拓郎歌碑



小さなレモンの実(左)とレモンの花(右)



初夏に広島県の島しょ部を訪れる機会があれば、鼻をくくんしてみてください。どこからともなく甘い優しい香りがしてきます。その正体は、レモンやみかんの花の香りです。夏になると、花の真中の雌しべの付け根がふっくらとして、写真のような小さなレモンの実になります。

爽やかなイメージのレモンは夏の果物と思われがちですが、その旬はみかん等他の柑橘類と同様に冬です。そして、小売店でグリーンレモンやイエローレモンという表示を見かけることがありますが、これは品種の違いではなく単なる時期による呼ばれ方の違いです。10月頃に収穫されたものはグリーンレモン、12月以降はイエローレモンとなります。他にも「瀬戸内の潮風に育まれたレモン」等のイメージコピーのレモン商品を時折みかけますが、実はレモンにとって風は大敵です。風はかいよう病というレモンがかかりやすい病気を広げてしまうため、レモンは風を避けるように育てられることが多いのです。広島県が日本一のレモン産地であることが広く知られ、2023年5月のG7広島サミットでも広島レモンを使用した料理や飲み物がふるまわれました。そんな広島が誇るレモンですが、その本当の姿を私たちは意外に知らないものです。

「知る」とはどういうことなのか、情報があふれる現代だからこそ、自分たちが何を本当に知っているのか、あるいは知らないのか、問いかけることが大切です。「何となく知っている」だけにとどまらない知識を、大学でしっかりと身につけてほしいと思います。

学長 矢野 泉



●表紙撮影場所：ハーモニーロード

広島修道大学の正門から校舎まで続く全長約350mの歩道。初夏にはツツジの花が咲き、夏にかけては銀杏並木が緑に染まります。秋には銀杏が見頃を迎え、多くの地域の方々に楽しんでいただいています。

広島修道大学 × 特集1 G7広島サミット

5月19日～21日に開催されたG7広島サミットに関連する、ボランティアや各イベント・プログラムで多数の本学学生が活躍しました。学生たちは、主要7カ国の首脳が集う国際会議に携わることで、グローバルな視点や多様性を養いました。



■G7サミットの概要

G7サミット(主要国首脳会議)とは、フランス、米国、英国、ドイツ、日本、イタリア、カナダ(議長国順)の7カ国及び欧州連合(EU)の首脳が参加して毎年開催される国際会議です。世界経済、地域情勢、様々な地球規模課題を始めとする国際社会における重要な課題について、G7各国の首脳が自由闊達な意見交換を行い、その成果を文書にまとめ公表します。

G7広島サミットでの学生の活躍

ボランティア活動

G7広島サミットの運営をサポートするため、2月の運営ボランティア結団式から6月の解散式までの間、本学から「おもてなしボランティア」8名、「通訳ボランティア」6名、計14名の学生が、G7広島サミットに関連するイベント等で活躍しました。



G7広島サミット学生ボランティア結団式の様子



結団式後のマナー研修の様子



結団式でユニフォームを受け取る学生

おもてなしボランティア

イベント会場や県民向けイベント等でサミット関係者に対するおもてなし(観光案内、移動支援、広島県の情報発信など)の活動をするボランティア
主な活動場所: 広島駅構内、国際メディアセンター ほか

佐伯 若菜さん(法学部4年)

参加のきっかけ

広島で開催されることを知り、小学生の時から学んできた平和と広島について発信することで地元に貢献したいと思い参加しました。



G7広島サミットでの経験はとも貴重なものとなりました。サミット

当日の国際メディアセンターでの活動の際、各国のメディア関係者の方が、センター内にある広島や日本に関する展示物を真剣に見られている姿に、広島のことを知ろうとしてみてくださいることを感じられとても嬉しかったです。

私は英語が苦手な海外の方との会話に不安がありました。しかし、片言の英語でも一生懸命聞きとろうとしたり、ジェスチャーや通訳アプリを使用して言いたいことが伝わったときは、達成感を感じました。

G7広島サミットは、全国・世界の協力があって無事開催できたと思います。年齢・国籍関係なく協力しあうことが大切だと強く感じました。この活動に携わることができ、とても光栄に思いました。

国際メディアセンター内で提供している食事などの補充を行いました。各国から参加する方々の時差を考慮して、食事の補充作業は24時間体制で行われていました。きめ細かい配慮が施されている“おもてなし”に、ボランティアとして携われることにやりがいを感じました。また、活動で一緒になった他大学の人と仲良くなれたことも嬉しかったです。

英語での対応で困ったときは、ジェスチャーや、知っている単語を使って案内をするよう心掛けました。将来、世界中の人と関わる仕事につきたいと考えているので、G7広島サミットでの活動経験をこれからの学生生活で生かしていきたいです。

佐伯 里呼さん(法学部2年)

参加のきっかけ

G7広島サミットに訪れる海外の方々をおもてなししたいと思い参加しました。



広島駅構内で海外からの観光客の方への対応を行いました。英語力に自信がなかったため不安でしたが、英語力の向上をめざし、なるべく翻訳機には頼らず、単語だけでも伝えるように努めました。「ありがとう」と言われたときはとても嬉しかったです。また、広島シェアサイクル“びーすくる”の案内活動では、笑顔で声掛けをすることで利用者が増えたときは達成感を感じました。

この度の活動から、海外に留学したいという思いが強くなりました。また、広島県が大好きになり、将来は広島県の職員として広島県に関わっていきたく強く思うようになりました。



野口 彩花さん(人間環境学部2年)

参加のきっかけ

進学をきっかけに暮らしている広島に役立ちたい、また、大学生だからこそできる経験をしたいと思い参加しました。

おもてなしボランティア・通訳ボランティアに参加した学生に取材しました!



おもてなしボランティア(左から)

人文学部人間関係学科社会学専攻 3年
川相 駿介(かわい しゅんすけ)
法学部法律学科 4年
佐伯 若菜(さえき わかな)
法学部法律学科 2年
佐伯 里呼(さえきりこ)
人間環境学部人間環境学科 2年
野口 彩花(のぐち あやか)

通訳ボランティア(右から)

人文学部研究科英文学専攻
博士前期課程 1年
芥川 和花(あくたがわ まどか)
人文学部英語英文学科 4年
堀内 勇斗(ほりうち ゆうと)
人文学部英語英文学科 3年
松村 奈々子(まつむら ななこ)

通訳ボランティア

関係各国の先遣隊歓迎イベントなどでの通訳、会話補助等の活動をするボランティア

松村 奈々子さん(人文学部3年)

・G7広島サミットジュニア会議
・フランス・イギリス先遣隊歓迎会
・国際メディアセンターでの活動



参加のきっかけ

もともと英語を話すことが好きで、1年次から英語や国際関係のイベント等に参加してきました。募集の話聞いた時に、G7サミットという大きな機会に携われるのは一生に一度だと思い、参加を決めました。

3日間行われたG7広島サミットジュニア会議では、広島の高校生とG7加盟国の高校生が「平和」、「持続可能性」、「多様性」の3つのテーマに分かれ、オンライン会議やテーマごとにゆかりのある広島県内箇所を視察し、最終日に若者の声としてG7に向けた成果文書を首相に提出しました。

私は「平和」グループのチューターを務めました。高校生たちと一緒に戦争と平和について学びながら、さまざまな国籍の高校生たちをまとめ、連絡や議事録の作成などを行いました。この3日間は私にとってボランティア活動の中で最も印象に残るとても充実した期間でした。

将来は英語を使う仕事に就きたいと漠然と考えていましたが、この活動を通じて英語を使う仕事には私の知らない仕事がたくさんあることを知りました。原爆の悲惨さや平和の大切さを英語で伝えられる仕事をしてみたいと思うようになりました。

各国外務省の方へ広島のお好み焼きや、特産物、お祭りなどの特色の紹介をしました。また、平和記念公園で各国のメディア関係者の方のアシスタントや通訳などを行いました。

この活動に参加して、平和について考える姿勢や、平和を大切にしたい気持ちは万国共通なのだと思います。平和を願うこと、平和のために何ができるのか、願いと現実の差をどのように解決するのか、人と人が話し合い、力ではなく言葉で解決することができたらどれほど幸せなことか実感しました。

この活動で得た経験を私自身の将来に繋げていきたいと思っています。社会に貢献できる一人の大人として邁進していきます。

堀内 勇斗さん(人文学部4年)

・各国外務省の方への広島紹介
・平和記念公園各国のメディアや報道陣の方の通訳アシスタント ほか



参加のきっかけ

大学生生活で学んだ英語や通訳スキルを実践で生かすことができるまたとない機会だと思い応募しました。この活動に参加することで、私自身の知見を広げ多角的に考えられるきっかけになると考えました。

G7広島サミットでの学生の活躍 各イベント・プログラム

Y7サミット参加者と県内学生との交流プログラム

4月7日、Y7サミット*に参加する各国の若者と県内大学の学生が国際課題解決をテーマに交流するプログラムに本学学生2名が参加しました。本プログラムは、多様なキャリアを持つY7サミット参加者との交流による学生の国際感覚及びチャレンジ精神の涵養・醸成を目的とされています。

当日は、「平和」、「安全保障」、「DX」、「エネルギー転換」、「ジェンダー平等」のテーマごとにチームに分かれ、英語でのグループディスカッションを行いました。「平和」のテーマで参加した岩根 陸さん(国際コミュニティ学部2年)は、自身のカナダ留学の経験を踏まえ、「家族、友達同士でも小さな思いやりを積み重ねていくことが平和につながる。」と意見を述べ、最後にディスカッションした内容をチームでまとめプレゼンテーションしました。

交流プログラム後に岩根さんは、「自身の弱みであった、人前で話すということが、参加して克服できたように感じました。」とコメントしました。

※Y7サミット:G7首脳会議の公式付属会議の1つとして、各国等を代表する若者(Youth)により開催される国際会議

G7広島サミット記念留学生スピーチコンテストに本学留学生が参加

4月14日、G7広島サミットの開催を記念した留学生スピーチコンテストに本学から中国出身の金雄さん(国際コミュニティ学部4年)が出場しました。

コンテストは、作文やスピーチ動画審査の予選を経て、広島県内の8大学から、7カ国・地域の留学生11名が本選に参加。最後に登壇した金さんは「戦争に勝ち負けなし」と題して「私たちは過去を変えることはできないが、それを越えることはできる。国や民族の違いを超えて協力して未来を築いていく必要がある。」と熱弁を振りました。

惜しくも入賞は果たせませんでした。金さんは「自分の主張がはっきりと伝えられてよかったです。出場できてとても良い経験になりました。」と感想を話してくれました。



おもてなしボランティア
川相 駿介(かわい しゅんすけ)
人文学部人間関係学科社会学専攻 3年

通訳ボランティア
芥川 和花(あくたがわ まどか)
人文科学研究科英文学専攻 博士前期課程 1年

Y7サミット交流プログラム
岩根 陸(いわね りく)
国際コミュニティ学部国際政治学科 2年

G7広島サミットを終えて 学生座談会

G7広島サミットに参加した学生に活動後のリアルな声を聞きました!

G7広島サミットでの活動内容

川相:私はおもてなしボランティアとして活動しました。サミット期間中は、広島駅で海外から来られた方を案内したり、国際メディアセンターで広島の特産品の提供などをしました。

芥川:国際メディアセンターの1階のブースです。私も行きました。

川相:はい。そこで各国のメディア関係者の方の対応をしました。

芥川:私は広島空港で各国の方の対応と、ドイツの首相が空港に到着した際にお出迎えして花束をお渡ししました。国際メディアセンターでは、メディア関係者のお出迎えや、ケータリングの補充をしました。また、おりづるタワーで行われた次世代シンポジウムにも参加しました。

岩根:私はY7サミット参加者との交流会プログラムに参加しました。県内の学生と各国のY7関係者がグループに分かれ、「平和」をテーマにみんなで意見交換しました。最後には話し合った結果をプレゼンテーションしました。

川相:それは全部英語でされたのですか?

岩根:そうですね、みんな英語でしたし、英語圏の方もいたのでとても刺激を受けました。

心に残っている出来事

芥川:次世代シンポジウムに参加したことが一番印象に残っています。各国首相のパートナーの方々やさまざまなバックグラウンドを持った人たちと、平和についてや、これからの世界をつくっていくためにどうしたら良いかなどを一緒に考えました。

川相:広島駅の新幹線改札口の前に観光者

案内特設ブースが開設されていたのですが、そこで海外から来られた方に道を聞かれた際に、目的地までの交通機関が運休になっていることを、英語が苦手ながら一生懸命伝えたことがありました。その時に「OK!君の英語よかったよ!」と言われ、すごく嬉しかったです。

岩根:Y7サミットで広島の学生が平和について語る時に、周りのみんなは発表資料を事前に用意していて驚きました。私はその場で考えて発表したのですが、発表順がグループ内で最後だったのでずっと緊張していたのを覚えています。

芥川:全部アドリブで話したのですか?

岩根:はい。周りのみんなが私のことを助けてくれて、話しやすい雰囲気してくれたことはすごく印象深かったです。

大学生として活動に参加する意義

芥川:G7広島サミットではさまざまな課題に対するトピックがあると思うのですが、私たち若者がその課題に向き合いながら身近に感じたことを、同じ若者やさらにその次の世代に発信していくことに意義があるのではないかと感じました。

川相:私も同じように感じています。同世代の若者に対して今回の経験を伝えていくことに意義があると思います。

岩根:Y7のYはYouthのYなので、若者が議論する機会があることそのものがすでに意義のあることだと思います。在学中にこのような機会に恵まれて良かったと思っています。

学生生活から生かされたもの

芥川:通訳コースの授業で紹介してもらった広島県通訳案内士の資格に挑戦していた際に、原爆ドームをはじめとした広島の色々なことを勉強していたので、場所や行き方について聞かれたときに、そのまま生かすことができました。

岩根:私も少し似ているのですが、1年生のときに履修したHiroshima Studiesという授業で、広島について英語で学ぶ機会がありました。Y7交流会では、授業で得た広島につ

いての知識を交えながら、平和について話すことができました。

川相:2人もすごいですね!

私は英語に関することではないのですが、初めての環境で挑戦するときや、初対面の人と接する際のコミュニケーション能力は大学生活で鍛えられました。例えばゼミナールでの、決められたテーマに対して議論するグループワークで力がついたかなと感じています。

今回の経験をどう生かしていきたいか

川相:活動を通じて自分の意外な積極性に気づくことができました。各国の方に英語で話しかけると自分にとってハードルが高いことも、だんだんと積極的に声をかけられるようになり、自分の新たな一面を感じることができました。この経験が自信につながったので、今後も学生生活で挑戦できることがあれば積極的に取り組んでいきたいと思っています。

岩根:私はもともと人前で話すのは緊張する性格だったのですが、自分の考えを多くの方の前で話すことができたという体験が自信につながりました。自分の苦手なことを克服できたような気がしますし、何より改めてやっぱり英語が好きだなと思えました。

芥川:もともと英語や国際交流がすごく好きで、ボランティア中も自分自身がすごく楽しんでいると感じていました。英語でコミュニケーションをとりながらおもてなしをするという今回の経験を生かし、相手にとってベストなおもてなしは何だろうかと常に考えて、行動できるようにしていきたいです。





2023ひろしまフラワーフェスティバル 広島修道大学ひろば& さつきステージ



本学テーマ 「咲かせよう！世界へ広げれ Smile Flowers」

6月10日～11日、「2023ひろしまフラワーフェスティバル」が広島平和大通りを中心に開催され、本学は4年ぶりに「広島修道大学ひろば&さつきステージ」を出展しました。5月にあった先進7カ国首脳会議(G7サミット)に伴い例年とは異なる日程となりましたが、ひろばとステージには、2日間で延べ約2,500名の来場者があり、盛況のうちに終わることができました。

さつきステージ

本学のサークル2バンドの演奏によるプレステージから始まり、現役生、OB・OG、広島フォーク村2023、広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校生徒による演奏やパフォーマンスが繰り広げられました。

司会進行は放送研究会が行い、ステージを飾ったステージバックは、美術部と書道部が制作しました。



ステージバック制作の想い

広島修道大学 さつきステージ



学生が制作したステージバック

<書道部の作品>

4年ぶりに開催する背景には新型コロナウイルス感染症の流行がありました。こうした状況を乗り越え、日の光を見つめて、希望を持って行こう!という願いを込めました。4文字を部員7人で一部ずつ分け、全員で力を合わせて作品を作ることで、作品を通して和気藹々とした明るさを伝えたいと思いました。

<美術部の作品>

国連の旗でも使用されている自由と平和を意味する淡い青色をベースに、平和の象徴のハトを描いています。デイジーや黄色のバラには、「平和」、「希望」、「友情」といった明るく前向きになれる花言葉があります。この作品を通じて、広島から世界へ、平和の大切さを発信したいと思いました。



折り鶴コーナー

広島修道大学ひろば

「折り鶴コーナー」

平和や希望、復興に思いをよせながら、来場者と共に折り鶴をつくり、折り鶴モニュメントの中に投函しました。折り鶴モニュメントは、本学協創館(8号館)の前に6月12日から1週間飾られました。

「Shudo Café」

2013年から東日本の復興支援の一環として続けている、福島県立平商業高等学校の生徒がプロデュースした「フラムーネ」と、広島県のご当地飲料の「広島レモンサイダー」、「カープラムネ」、「チー坊の乳酸菌ソーダ」などの販売を行いました。

「修大生と話そうコーナー」

校友会・留学生・ステージで出演した各サークルの学生たちが、来場者からの大学に関する質問に答えたり、一緒に書道体験をするなどして楽しんでいただきました。

「スタンプラリー」

広島修道大学ひろばの各コーナーを巡るスタンプラリーを実施しました。全て集めた来場者にはお菓子をプレゼントしました。



折り鶴をモニュメントに投函する様子



「修大生と話そう」コーナー



Shudo Café



スタンプラリー

今年度の本学テーマ
「咲かせよう！世界へ広げれ Smile Flowers」
は私たちが考えました！
G7サミットが開催される広島から笑顔が広がってほしいという
願いを込め、発案しました！



校友会第65期執行委員会



「広島修道大学同窓会ひろば」

「広島修道大学ひろば&さつきステージ」に併設。2025年に創始300周年を迎える修道学園の歴史紹介や、観音キャンパスから沼田キャンパスに至るまでの懐かしい写真の展示に加え同窓会誌を配布しました。



参加学生の声 校友会第65期執行委員会 執行委員長 辻 雄亮さん

4年ぶりの開催でしたが、多くの人に支えられてこのイベントを終えることができました。校友会執行委員のメンバーや、広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校生徒のみなさん、そして関係者のみなさまのおかげで滞りなく運営ができました。このフラワーフェスティバルを通して「感謝の気持ちの大切さ」をより実感することができたと思います。この貴重な経験ができたことに感謝しています。



未来への探求

「企業のマーケティング戦略と消費者側の認識について」

マーケティングとは

マーケティングの概念は、顧客満足を得るための売るという行為に関わるすべての企業の取り組みやプロセスのことです。また、売り手と買い手両方を重視するのがマーケティングの基本原理だと考えられています。

私はマーケティングにおける企業側の戦略と消費者側の認識、あるいは両者の接点に関する研究をしています。

企業戦略と消費者の認識

私は、マーケティングの総合的な流れの中で、そもそも企業がどのようなミッションを持ち、どのような到達目標を立て、商品・サービス、ブランド、業績等で競争優位（他社に比べ優位に立つこと）を生み出しているかに興味を持ちました。まず、企業ミッションとCEOメッセージなどの内容を分析し、企業の業績との

関係を探ることから始めました。しかし、近年の急激な事業環境変化や顧客需要の多角化から単独で事業を行うための十分なリソースを持っている企業は多くはなく、企業はさまざまな形で他の企業と協力して事業を進めています。このため、企業間の戦略的提携による影響についても幅を広げ研究をしています。

また、企業側の動きに対する消費者側の認識と反応も重要であると考え、特に、サービス産業における消費者の口コミ分析により、消費者の認識、感情、満足要因、不満要因、ブランドイメージについて研究してきました。例えば、ホテル利用客の認識の国際比較、格安航空会社乗客の満足要因、乗客から見た各国際航空連盟の違いと感情分析に関する研究などがあります。

Global airline alliance

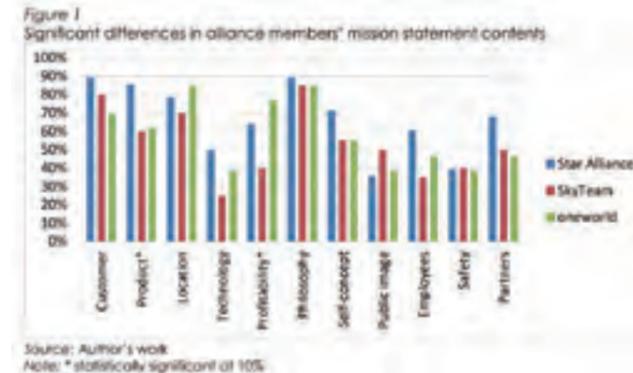
前述した企業間の戦略的提携は、近年、エアラインサービス産業においても、頻りに結ばれています。これは、厳しい規制を回避しながら、特定路線における航空会社の影響力の拡大を狙う戦略的に起因します。また、海外企業との協力は、国際線の乗客に対するサービスのシームレス化など、サービスや企業ブランドの向上も期待され、global airline alliance（以下、「国際航空連合」という。）は航空会社のマーケティング戦略の1つのツールでもあります。現在、航空会社の国際

Table 28. Comparison of competitive advantages of the three global airline alliances

Alliance	Side	Competitive advantages of each alliance
oneworld	Supply side	• Cheapest routes (Star-Bank: 21.4%) • Comprehensive (Star-Bank: 20.7%) • Service quality (Star-Bank: 19.0%)
	Demand side	• 100% level of alliance (Star-Bank: 20.0%) • Global reach (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%)
	Strategy	• 100% level of alliance (Star-Bank: 20.0%) • Global reach (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%)
SkyTeam	Supply side	• Cheapest routes (Star-Bank: 21.4%) • Comprehensive (Star-Bank: 20.7%) • Service quality (Star-Bank: 19.0%)
	Demand side	• 100% level of alliance (Star-Bank: 20.0%) • Global reach (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%)
	Strategy	• 100% level of alliance (Star-Bank: 20.0%) • Global reach (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%)
Star Alliance	Supply side	• Cheapest routes (Star-Bank: 21.4%) • Comprehensive (Star-Bank: 20.7%) • Service quality (Star-Bank: 19.0%)
	Demand side	• 100% level of alliance (Star-Bank: 20.0%) • Global reach (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%)
	Strategy	• 100% level of alliance (Star-Bank: 20.0%) • Global reach (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%) • 24-hour service (Star-Bank: 19.0%)

Note: N = 1000 cases
Source: the authors' work

各国際航空連合の競争優位の比較



各国際航空連合メンバーのミッションステートメントの内容上の統計的相違

的な戦略的提携である国際航空連合にはStar Alliance、Sky Team、oneworldの3つがあり、世界の約6割以上の航空会社が参加しています。

国際航空連合への参加による航空会社に与える影響や、それぞれの国際航空連合がどのような競争優位を持っているのかなど、長年、さまざまな研究が行われてきました。私は、企業側と消費者側の両方から各国際航空連合の競争優位について研究しました。

競争優位の分析指標として、企業側には有償旅客キロ、有償座席利用率、乗客数を勘案した交通量、収益、そして二酸化炭素排出量のような環境に関するものも用い、消費者側には、点数化した感情やサービス満足度、さらにはCEOメッセージの効果から各国際航空連合の戦略的コミュニケーション品質も対象としました。

その結果、国際航空連合に参加している企業の方が競争優位にあることが確

認できました。その一方で、戦略的コミュニケーションの品質については、国際航空連合に参加していない企業の方が高い結果ができました。

国際航空連合に参加することによってメンバー間が影響し合い、企業が競争優位になることはある程度推測できます。しかし、戦略的コミュニケーションについては、メンバーが増えると戦略目的や企業ステータスの違いなどから全体のマネジメントが難しくなり、参加していない企業の方が比較的良く管理できていると解釈できます。

今後の研究について

マーケティングの分野は幅が広く、奥も深いです。今後も非営利組織のマーケティングの取り組み、中小企業のマーケティング戦略、消費者の潜在的ニーズを可視化するニューロ・マーケティングなど様々な研究テーマに挑戦していきたいと考えています。



長寿企業のミッションステートメントのワードクラウド分析結果

商学部准教授
ソカンファン
徐康勳

プロフィール

神戸大学 大学院経営学研究科 博士後期課程修了
博士(経営学)
専門分野: マーケティング、国際マーケティング、マーケティング戦略
主要研究テーマ: 企業の国際マーケティング諸活動・戦略研究、消費者の認識・行動研究

詳しくはこちら



修大人の飛翔

活躍する卒業生

GRADUATES
MESSAGE
Vol.47

ラクサス・テクノロジーズ株式会社
取締役 副社長執行役員 COO

たけ ます こう じ
竹増 浩司さん

人文学部英語英文学科 2006年3月卒業



詳しくはこちら



他者への理解を深めた 在学時代

最も力を入れて取り組んだのは、ウエスタン部での活動です。途中入部でありながらも、多くの方のサポートがあり、部長を務めさせていただきました。音楽に対する熱量や知識、技術が異なるメンバーが一つに集まる中で、「それぞれが楽しむためにはどうすべきか？」を考え、行動したことは貴重な経験だったと思います。学業の面では、「なぜ、そう思うのか？なぜ、そう考えるのか？」という人間の思考について理解を深める授業に興味を持ち、英語英文学科の専門科目に加え、倫理学や心理学などの授業も進んで履修していました。他者の思考を受け入れ、理解し行動することを心がけてきた在学時代の経験が、多様な人々との協働が求められる社会で活きていると感じています。

新事業への挑戦で 培った柔軟性

大学卒業後に勤めた企業では、営業、企画業務、物流業務、在庫管理業務、決済業務、顧客対応業務、分析業務や社内研修業務など、幅広い領域の業務に携わり、異なる業務間の関係性や相互連携の重要性を学びました。また、それぞれの業務から派生し

た新たな事業の展開や、一から事業を立ち上げる経験も多くありました。常に新しい課題へ取り組むことが求められる環境だったので、柔軟性や問題解決能力を養うことができました。

特に印象に残る仕事は、現在勤めているラクサス・テクノロジーズ株式会社で取り組んでいる事業『Laxus』の物流業務の立ち上げです。ブランドバッグのシェアリングサービスという当時は新しいビジネスモデルであったことから、同業の事例が少なく、他業種のアイデアを取り入れて課題解決に取り組みました。効率的な物流プロセスを構築していく過程で、他業種連携の重要性を学び、幅広い知見を得ました。

笑顔を生み出すきっかけに

私は、「人は幸せだから笑うのではなく、笑うから幸せなんだ」という言葉が好きです。幸せは与えられるものではなく、自分自身の「笑う」という行動によって生み出されるものと考えています。この言葉は、当社の経営理念「世界中に笑顔を生み出す」に通じる部分があり、私が行動をするうえで大切な指針としています。事業を通じて、関わる方々が自然と「笑顔」になれるきっかけを提供していきたいと考えています。

やりたいことに時間をかけて

学生の皆さんには、自分の興味のあること、やりたいことに取り組む時間を増やしてほしいと思います。しかし、「やりたいことが分からない」という方も中にはいるでしょう。そのようなときには、「自分が何に時間を使っているのか」を知ることから始めてみてください。自分のやりたいことが見つかったら、目標を設定し、そこに時間を費やしましょう。時間は人生において最も貴重なものです。人生をより豊かにするために、限られた時間を大切に、有効に使ってください。

私のターニングポイント

仕事や人生に対する考え方を大きく変えたのは、現在勤めているLaxus創業者の児玉氏との出会いでした。共に事業をつくり上げていく過程で、物事をゼロから立ち上げることの難しさと楽しさを学ぶことができました。



▲Laxus創業者児玉氏との共同バースデーの様子



▲Laxus最大の拠点『Laxus Base』にて





松長 明音 (まつなが あかね)さん
健康科学部心理学科3年
広島県立廿日市高校出身

ウィーン開催の国連支援募金30周年記念 サイド・イベントに日本代表として参加

夢の一步となった学外活動

私が所属する健康科学部心理学科では、学外での自主的な活動を促すことを目的とした「活動推進学期」があり、学生が地域に出てさまざまな活動に取り組んでいます。私は、その活動の一つである薬物乱用防止啓発活動に参加しました。活動をするうえで必要な知識を身につけるため、薬物乱用防止教育認定講師養成講座を受講し、大学生薬物乱用防止認定講師の認定を受けました。認定後は、広島県ヤング薬物乱用防止指導員として広島県内の小・中学校で薬物乱用防止教室を開き、子どもたちに向けてクイズ等で薬物乱用防止を啓発する活動を行いました。

大学の授業で学んだ心理学を、薬物乱用防止啓発活動や薬物使用者の心のケアに役立てることができたらと思い活動しました。警察官をめざす私にとって、夢への一步となる、とても貴重な経験でした。

日本の若者代表として

3月14日にオーストリアのウィーンで開催された「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金30周年記念サイド・イベントへの参加は、活動推進学期でお世話になった

広島フェニックスライオンズクラブに声をかけていただいたことがきっかけでした。そこからイベント参加への応募、面接試験を経て、日本の若者代表者として選ばれました。

参加することが決まってからは、本番まで2カ月と短いこともあり、毎日大学で先生と英語でのスピーチの反復練習をしました。英語でのスピーチ経験がなく、最初は無謀な挑戦だと感じ、とても不安でしたが、3名の先生に手厚くサポートしていただき練習に付き合ってもらうことで、少しずつ自信につながっていきました。英語が未熟なので、目線や表情、笑顔で強調する単語をどれにするかなどを意識して準備し、重要なことが伝わるように発表方法に力を入れるなど工夫しました。

総理官邸への表敬訪問 そしてウィーンでの発表本番

日本からは3名の学生が若者代表としてイベントに参加しました。日本出国前に総理官邸へ表敬訪問した際には、日本代表としての自覚がさらに芽生え、気が引き締まりました。それからはあつという間に本番を迎え、当日はイベントの規模の大きさに圧倒されたことを覚

えています。スピーチでは、「大学生が子供たちに薬物乱用防止啓発活動の教室を開くことで薬物について知ってもらい、薬物使用者とならないために、小さくても良いので何か自分が没頭できるものを見つけてほしい。」などをお話しました。



広島フェニックスライオンズクラブより提供

何事もあきらめず努力すること

イベントへ応募した当初は、正直ここまで大規模なものとは思っていませんでした。準備しているときは失敗するのではないかと、とても不安でした。しかし、大学の先生や活動先の関係の方々サポートにより成功したと思っています。

何事もあきらめず努力することで、形になっていくと思います。無謀だと思えることにも、ぜひ挑戦してみてください。

サークルインフォメーション Circle Information

空手道部



「第48回中四国学生空手道選手権大会」で優勝

5月7日に岡山大学で開催された「第48回中四国学生空手道選手権大会」で、松田 祐佳さん(人間環境学部人間環境学科2年)が女子個人組手の部で優勝しました。

1年生だった前回大会で3位。コロナ禍で練習量が限られていた時期も工夫をしながら練習に励み、2年生となった今大会で初優勝を果たしました。



詳しくはこちら

軟式庭球部



中国学生ソフトテニスリーグ戦大会で優勝などの活躍

4月28日～5月2日、中国学生ソフトテニスリーグ戦大会が山口県周南のクリンパレレッジ周南庭球場で行われ、個人選手権、シングルス選手権で男女ともに好成績を収めました。

男子個人選手権では、平野 翔虎さん(健康科学部健康栄養学科3年)・西田 有汰さん(経済科学部経済情報学科3年)ペアが優勝し、秋季リーグ戦に続く連覇となりました。また、馬場 翔永さん(国際コミュニティ学部地域行政学科4年)・住岡田 遼一さん(商学部経営学科4年)ペアが準優勝し、本学が1位、2位を独占する結果となりました。女子個人選手権でも、黒木 美来さん(健康科学部健康栄養学科2年)・行田 夏菜子さん(人文学部教育学科2年)ペアが第3位と活躍。シングルス選手権においても、平野 翔虎さんが優勝、西田 有汰さんがベスト8、行田 夏菜子さんが準優勝の好成績を収めました。



詳しくはこちら

CIRCLE SCHEDULE

サークルの大会・イベントなどの活動スケジュールを大学WEBサイト「クラブ・サークル」ページ内で公開しています。以下のURLまたは二次元コードからアクセスし、「大会・イベントスケジュール」を選択してご覧ください。

<https://www.shudo-u.ac.jp/lifesupport/club/index.html>



ピックアップサークル 将棋同好会



将棋を通して 仲を深める

将棋同好会は毎週火曜日と木曜日の週2回活動しています。毎年春と秋の2回行われる中四国学生将棋大会に出場するために日々将棋を指しています。部員の中には経験者だけでなく初心者もいるため、部員同士で教え合い、切磋琢磨しています。また、将棋を指すだけでなく様々なアナログゲームをして部員同士の仲を深めています。最近では新型コロナウイルスによる規制が緩和されたことでコロナ禍以前の活動に戻りつつあります。大会で優勝することを目標に一層活動に励んでいきたいと思っています。

広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業 採択事業テーマ「空き家を活用した人口減少対策」



安芸太田町の人口減少・空き家率等の地域課題に着目し、「空き家を活用した人口減少対策」をテーマとした活動に2021年度から取り組んでいます。この活動は令和3年度と令和4年度広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業※に採択され、指導教員として国際コミュニティ学部木原一郎准教授と約20名の有志学生が取り組む地域連携活動です。

2021年度は、安芸太田町の空き家を利用した短期移住体験やアンケート実施等の活動を通し、空き家対策その

ものが人口減少対策の一環となり、地域住民のUIターンを促せるものになると考察しました。

2022年度は、前年度の考察から新たな人口減少対策として「空き家を活用しながら地域コミュニティを醸成すること」が有効であるという仮説を立てて活動しました。地域コミュニティを醸成するために、安芸太田町の既存の施設を利用し、学生が企画・設営・運営の主体を担った「ママカフェ」を3回実施しました。参加者へのヒアリングや施設利用の様子、参加者の交流の様子などが



ら、その効果を実践的に検証しました。さらに、2023年2月に開催された広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業活動成果発表会では、2022年度の活動成果として、場づくりを工夫すること、地域の方が気軽に立ち寄れることを重視し公共施設や遊休施設・空き家を選定すること、学生が潤滑油になりコミュニティ同士をつなぐこと、この3点の工夫を施した「多様な形のコミュニティカフェ」を実施することが、人口減少対策に効果があるのではないかと新しい仮説を立てたことを報告しました。

今年度以降も引き続き人口減少対策の仮説を実践的に検証予定です。

※広島市が、「200万人広島都市圏構想」の実現に向け、地域に愛着と誇りを持って地域課題の解決や産業・経済の更なる発展等に貢献する人材を育成するため、広島広域都市圏における大学等が圏域内市町において、当該市町や地域住民、企業、団体等と連携して地域課題の解決等に取り組む教育研究活動に対して補助する事業です。



詳しくはこちら

平和学習「似島の歴史を深く学ぶ」教材の制作

人文学部教育学科三木由美子教授のゼミナールにて平和学習を目的とした「似島の歴史を深く学ぶ」ための教材を制作しました。教材作成にあたり、小学生にわかりやすい教材をテーマに、学生たちは「似島の歴史」に向きあい学びを深め、ゼミナールの中で議論を重ねました。完成した教材は、バームクーヘンカップ2023トライアスロン体験会 in 似島(似島活性化スポーツ事業実行委員会主催)に参加する小学生に向けた平和学習教材として利用されます。



ゼミナール学生の一言

大畑 裕真さん(人文学部教育学科4年生)

教材制作では戦争の悲惨さや暗いイメージだけではなく、馴染みのある教材にし、平和の大切さを考えてもらえるよう工夫しました。ゼミナールに参加して、似島の魅力だけではなく、戦争の悲惨さや平和の大切さを自分自身も再認識しました。

バームクーヘンカップ2023
トライアスロン体験会 in 似島
開催日:2023年7月23日(日) 対象:小学4・5・6年生

詳しくはこちら



海外留学記



安部 直人(あべ なおと)さん
国際コミュニティ学部国際政治学科3年
(島根県立安来高校出身)

留学先:アリゾナ州立大学(アメリカ)
留学期間:2022年10月~3月

アリゾナ州立大学へ留学した理由

留学先にアリゾナ州立大学(ASU)を選んだ理由は、広大なスケールのキャンパスにさまざまな国からの留学生が集まり、英語4技能を強化するReading & WritingとSpeaking & Listeningの2つのカリキュラムに魅力を感じたためです。さらに、ボランティア活動を通して学ぶプログラムもあり、異国の地でのボランティア活動から新しい体験ができ、世界を知りたい私にとってぴったりだと感じました。



事前に準備したこと

留学前はとてもワクワクした気持ちで留学先の情報を集めていました。ASUはキャンパスがとても大きいのですが、事前にキャンパスツアーの動画を何度も見て教室や食堂、体育館の位置を把握することで、ほぼ迷うことなくキャンパス内を移動することができました。また、留学に関する動画を見て、こういったトラブルがあるか、持っていた方がよいものなどの情報を得たことは、ホームステイ先や学校でのトラブルを回避することに役立ったと思います。

留學生活で感じたこと

一番印象に残っていることは、5ヶ月間のホームステイです。ホームステイ先で大変だったことの1つは食生活です。

ホストマザーはビーガンで肉料理は食べない方でした。メキシコに近いアリゾナ州では、メキシコ料理のブリトーやタコスなどが主なメニューです。どれも美味しかったのですが、全て野菜メインで私には少し物足らず、材料を用意していただいて自分で作り、好きな時間に食べていました。



また、ボランティア先で日本文化をメインにしたアリゾナ祭りに招待され、パフォーマーとして参加したことも印象に残っています。多くの観衆の前で「けん玉」と、出身地島根県安来市発祥の伝統芸能「どじょうすくい」を披露しました。

一方で、多くの人との関わりの中で、日本人でありながら日本のことを全然知らないことも痛感しました。日本の観光名所や、箸の使い方、食事の配膳方法・作法など日本文化・慣習を説明したくてもうまく説明できないことに危機感を覚えました。



留学で得たもの

ASUでは、英語力を基礎から応用まで身につけることができる授業展開となっていました。授業は、アクティブラーニングのスタイルで、学生が自ら問題を解き、発言することが多くありました。自主的に発言をしなければ意欲がないとみなされるので、積極的に手を挙げ発言をしていました。このような環境のおかげで、基礎から応用にかけての英語力と自主性・積極性を身につけることができました。



修大生へのメッセージ

留学前に重点的にやっておくべきことは、発音矯正だと思います。日本人にとってLとRの発音は難しく、その発音ミスから誤解が生まれることや、そもそも意図が伝わらないこともあります。これを克服するために色々な単語を口ずさむようにしていました。FamilyやRiceなど簡単な単語でも、LとRの部分を意識して口ずさむと、口がだんだんとLとRに対応していくのがわかります。

また、昔ながらの遊びや伝統芸能を学び、試すのもいいと思います。日本文化を習得してから留学に行くとそのことに助けられたり、新しいコミュニティと出会えたりします。私自身それをきっかけに多くの貴重な経験が得られましたし、出会った方々とは日本文化をきっかけに今も関係が続いています。



人文科学研究科心理学専攻の大学院生2名が若手研究者奨励賞を受賞

日本社会心理学会の2022年度若手研究者奨励賞を人文科学研究科心理学専攻の大学院生2名が受賞。この賞は、日本社会心理学会が主に若手研究者の優れた研究活動を支援することを目的として設けられている。

受賞者: 藤川 真子さん(写真右)

受賞テーマ: 情報獲得において多数派の行動を過剰に模倣することは適応的なのか?: 多数派同調バイアスの実験的検討

受賞者: 東田 みな美さん(写真左)

受賞テーマ: 社会的ジレンマ状況における多数派同調バイアスの適応的意義



2023年度「地域つながるプロジェクト」採択

学生が、地域の方々とともに地域の課題を解決する活動の企画・実施や調査・研究を行う「地域つながるプロジェクト」に今年度は9プロジェクトが採択された。学生の主体性や豊かな人間性を育成し、「地域社会の発展に貢献できる人材の養成」をめざす。

No.	プロジェクト名	参加学生数	担当教職員(所属学部)
1	柳井知っちゃう? ~柳井を活性化したい~	5	木村 弘(商学部)
2	今日から僕らは五月っ子!?	13	川瀬 正樹(商学部)
3	防災意識を高めるプロジェクト	12	川瀬 正樹(商学部)
4	愛する海でアップサイクルするアート!プロジェクト	8	山川 肖美(人文学部)
5	宮島観光活性化プロジェクト ~観光と言語がつなぐ地域の輪~	12	石田 崇(人文学部)
6	安芸太田に来てみんさい!!	14	森河 亮(法学部)
7	骨を元気に!食のAAOプロジェクト	4	山内 有信(健康科学部)
8	学生地域おこし合宿in安芸高田市	9	隅田 姿(国際コミュニティ学部)
9	ひろしま Global Bridge	11	隅田 姿(国際コミュニティ学部)

チェコ共和国デジタル化担当副首相が来学(6/14)

チェコ共和国のイヴァン・バルトシュ デジタル化担当副首相兼地方開発大臣をはじめとする政府関係者等約30名が本学に来学。本学は2015年にチェコ共和国のオロモウツ・パラツキー大学と協定を結び、2021年にはチェコスロヴァキアの民主化を主導したヴァーツラフ・ハヴェル初代チェコ共和国大統領の遺徳を偲ぶ「ハヴェルのベンチ」をアジアで初めて設置するなど、チェコ共和国との交流を深めている。副首相による「急速に変化する世界における知識社会への変革 - 民主主義と人権の成長と保護への重要前提条件として」と題した講演も実施。



ハヴェルのベンチにて

後援会総会・講演会等を開催(5/27)

後援会総会・講演会等に約150名の保証人が出席。総会で2022年度事業報告・決算、2023年度事業計画・予算の承認後、矢野学長による本学の現状説明があった。また、金沢大学融合研究域融合科学系教授/東京大学未来ビジョン研究センター客員教授 金間大介氏による「なぜ今の若者はそこまで目立つことを恐れるのか?」~キャンパス内で急増する「いい子症候群」の心理的特徴~と題した講演会を実施。その後、国際センター、キャリアセンターのガイダンスが行われた。



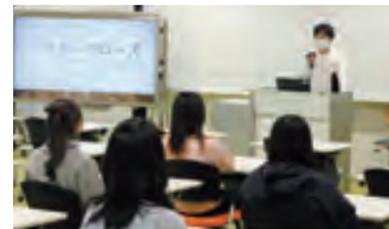
一人暮らしの新入生交流会開催(4/7)

一人暮らしを始める新入生を対象に、大学生活をスムーズにスタートしてもらうことを目的に交流会を開催し154名が参加。一人暮らしをはじめの者同士、友達の輪を広げ、先輩学生から一人暮らしのアドバイスや工夫、学生生活の体験談を聞いた。



第1回ボランティア講習会開催(4/26)

「先輩から学ぼう!ボランティアの魅力って?」をテーマとし、ボランティア活動に興味を持つ学生20名に対し、活動経験のある学生2名がボランティア活動の知識や心構え、活動に参加した動機や体験談などを伝えた。



日墨青年文化交流訪日団(5/15)

本学の協定校グアナフアト大学のあるグアナフアト州の大学生や高校生、州職員ら41名からなる「日墨青年文化交流訪日団」が本学を4年ぶりに訪問。木村弘商学部教授の講義を受講した後、食堂でのランチ、折り鶴づくりなど本学学生と交流した。



留学体験報告会開催(4/19)

春季休暇中に、ニュージーランドセミナー(約6週間)およびアリゾナセミナー(約3週間)に参加した学生が留学体験を報告。留学中の写真を使いながら、英語を交えて発表し、留学を希望している学生に大いに刺激になった。



新入留学生歓迎会開催(4/27)

今年度前期は、中国、韓国、アメリカ、フランス、ドイツ、チェコの6カ国からの交換留学生12名、正規留学生7名、研究生1名の計20名の歓迎会を開催。約120名の参加者を前に、一人ずつ自己紹介した後、ゲームも実施し、笑顔があふれた。



学長表彰表彰式および奨学生採用証書授与式等を開催(6/7)

2022年度学長表彰表彰式及び2023年度成績優秀奨学生採用証書授与式等を開催し、約250名の学生や教職員等が出席。矢野学長より各表彰・奨学生の代表者へ表彰状・採用証書が授与された。



一人暮らしの料理教室開催(4/19)

一人暮らしの新入生を対象とした料理教室に12名が参加。生活の変化により食生活が乱れないよう、簡単な調理で食に対する意識を高めるとともに、交流を深めることを目的に実施している。



商学部 川原直毅教授が令和5年度広島市政功労表彰を受賞

川原直毅教授が広島市政功労表彰を受賞。行政の進展、地域社会の振興、産業経済の発展等に顕著な功績のあった人を表彰する制度で、広島消費者協会幹事として広島市消費者保護の推進に貢献したことが評価された。



西田友是名誉教授が「瑞宝中綬章」を受章

西田友是名誉教授が2023年春の叙勲において「瑞宝中綬章」を受章。西田先生は、1993年から非常勤講師、また2013年度より、経済科学部教授としてコンピュータグラフィックスや情報科学を専門に、教育・研究に従事。紫綬褒章をはじめとする数々の賞を受賞されている。





※デザインは変更となる場合があります。

学校法人修道学園創始300周年にあたる2025年度の完成をめざして、新体育館建設工事が始まりました。今後TRUTHでも、新体育館建設の様子をお届けしていきます！

建設概要・流れ

新体育館は現在の第1グラウンド(テニスコート、バレーボールコート)を建設予定地としているため、大きく分けて以下の3つのステップで工事を進めていきます！

- Step 1** 2023年6月～10月中旬
テニスコート・バレーボールコートを移設
- Step 2** 2023年10月中旬～2025年9月頃
新体育館建設工事
体育館前広場整備工事
2025年9月完成予定
- Step 3** 2025年10月頃～2026年7月頃
現体育館解体、跡地整備工事(駐車場・外構整備)



エントランス・トレーニングルーム

メインアリーナ

工事等の様子

5月30日 新体育館工事に先立ち、新テニスコートの工事が始まりました！

○新テニスコートのPoint

- ・コート数:6面
- ・硬式、軟式テニスの公式戦に対応
- ・LED照明柱を設置(夕方の練習にも対応)
- ・導入する人工芝はサトウキビを原料としたバイオポリエチレンを配合し、CO2削減など、環境に配慮した素材を導入します。



6月8日 新体育館建設予定地(第1グラウンド)にて起工式を実施しました。起工式には71名が参列し、2026年度まで続く工事の安全を祈願しました。



刊行物紹介

本学教員の著書を紹介し、紹介文は先生ご自身よりいただいています。

『イノベーション・マネジメント』

【執筆等教員】徐 康勲(商学部) 伊藤 宗彦編著 放送大学教育振興会 2023年3月 248ページ 3,410円(税込)

イノベーションは今まで世の中に存在していなかったアイデアを生み出すことや、そのアイデアを、具体的な商品やサービスに変え、消費者に届けることを意味する。イノベーションが起きることで、消費者の生活や世の中はより豊かで便利になり、我々人類の科学と文化も進歩することになる。この本はイノベーションの意味や種類、主要理論、企業事例、イノベーションを起こす組織をいかに管理すべきかに関して述べている。



『現代流通辞典[第3版]』

【執筆等教員】矢野 泉(商学部) 坂爪浩史監、日本流通学会編 白桃書房 2023年3月 358ページ 3,400円(税込)

近年、流通を取り巻く環境は大きく変化するとともに、社会経済における重要性もより高くなっている。本書は、日本流通学会が2006年に初版を発売した流通分野を学際的かつ学術的に解説した『現代流通事典』を、学会設立35周年を機に全面改訂したものである。矢野は「卸売業」の章において、生鮮食品流通の要であり近年大きな政策転換が行われた卸売市場について、「中央卸売市場と地方卸売市場」と題した項目を担当した。



『ほんとうのサステナビリティってなに?:食と農のSDGs』

【執筆等教員】矢野 泉(商学部) 関根住恵編著 農山漁村文化協会(農文協) 2023年2月 152ページ 2,860円(税込)

私たちのいのちや暮らし、生物多様性、文化、景観などを支え守る農林漁業や環境について、身近な生活から深く考え、問う手がかりを提供することを目的とした「テーマで探求:世界の食・農林漁業・環境」(全3巻)の第2巻として刊行。食と農のサステナビリティに関わる25のテーマと17のコラムから構成されている。矢野は「農場から食卓へ」をテーマに、様々な農産物・食品の流通経路のそれぞれの役割を問いかけている。



『板書&展開例でよくわかる主体的・対話的で深い学びでつくる365日の全授業 中学校社会 地理的分野』

【執筆等教員】永田 成文(人文学部) 梅津正美編著、永田成文編著 明治図書出版 2023年3月 288ページ 3,520円(税込)

平成29年版学習指導要領では、コンテンツ(内容)からコンピテンシー(資質・能力)が重要視され、地理授業では、地理的な見方・考え方を働かせて主体的・対話的で深い学びを実現することが求められている。本書では、地理授業モデルとして、学習指導要領を参考に設定した各単元について、目標や概要、評価計画の見取り図を基に、生徒の主体的な思考・判断・表現により知識や技能を高めるような各時の板書&展開例を具体的に提案している。



『最前線に立つ研究者15人の白熱!講義 生きものは不思議』

【執筆等教員】岡西 政典(人間環境学部) 河出書房新社編、池田譲[ほか]著 河出書房新社 2023年2月 288ページ 1,562円(税込)

本書は、様々な生物を研究対象とする気鋭の研究者十五人の研究譚アンソロジーである。行動学、進化学、解剖学、古生物学など様々な分野の研究者が、探究心を武器に日本中、世界中を飛び回る日常を描く。15者15様の物語が放つ「生物に関わる楽しさ」や「もっと知りたい」という根源的なエネルギーに触れ、地球上の多様な生物の生き様と、それを明らかにする研究者の熱意を感じ取ってほしい。



『広がる!進化心理学』

【執筆等教員】中西 大輔(健康科学部) 小田亮・大坪庸介 編、中西大輔[ほか]著 朝倉書店 2023年6月 196ページ 2,970円(税込)

これまで心理学で研究されてきた神経・生理、感情、認知、性、発達、パーソナリティ、社会、言語、文化、道徳、宗教、教育、犯罪といった伝統的な領域について、進化心理学の見地から展望した。第7章「進化心理学とパーソナリティ」で、個人差を進化論の立場からどう捉えるべきか論じた。



『Women Practicing Resilience, Self-care and Wellbeing in Academia』

【執筆等教員】名波 彰子(国際コミュニティ学部) Ida Fatimawati Adi Badiozaman, Voon Mung Ling, Kiran deep Sandhu Routledge 2023年3月 216ページ 4,104円(税込)

本書は、アカデミア(学術界)における女性研究者たちの、それぞれのしなやかなキャリアの軌跡をあらわしたものである。日本の研究者における女性の割合は16.2%(OECD、2018)であり、未だ男性中心社会といえる。そのため女性研究者はキャリア早期からさまざまな 이슈に遭遇することも多いが、著者(=私)は、「偉大なる逃走(Great Escape)」などの様々なサバイバルのための戦略を担当した章で描いた。

※為替レートにより、金額は変動します。



ご寄附いただきました方々へ、心より御礼申し上げます。(敬称略) 受領期間 2022年4月～2023年3月

新体育館建設事業寄附金

寄附総額 ¥15,320,000 受領期間 2022年6月～2023年3月

荒滝 龍馬	佐伯 美栄子	俵 美将
飯田 良行	坂根 甲作	近川 佳子
池田 達也	坂本 龍壯	茶木 篤紀
石田 悦二	迫 秀幸	常広 一信
石橋 昇平	佐々木 清明	出家 功一
板本 明子	佐々木 茂喜	豊島 崇宜
市原 則之	佐竹 恭子	寺本 正成
伊東 克裕	佐藤 憲	土居 由和
伊藤 敏安	佐藤 琢哉	堂々 ひろ珠
稲葉 直人	志々目 喜美子	堂面 泰造
井上 宏基	下田 保清	徳永 啓
井村 真隆	城 尚史	鳥越 孝
入江 みどり	少林寺拳法部 OB会	中川 修爾
植木 秀行	新谷 裕子	中川 武
上田 陽子	進藤 愛美	中川原 廣高
上村 由香	進藤 純子	中合 孝宜
内本 伸郎	進藤 育明	中島 正夫
浦島 文範	眞野 勝弘	永田 成文
江川 国昭	杉本 芳樹	中谷 良通
江藤 優美	須々木 珠己	中野 勝廣
大段 和夫	砂脇 誠	中野 進
大塚 淳八郎	住田 敏	二井内 滋
岡田 武士	住田 忠良	西川 榮一
岡田 英一	諏訪 善昭	西村 仁志
岡田 泰治	堰楽 典子	西村 政晴
岡田 安正	ゼネラル興産株式会社	西元 成憲
岡村 五十男	曾我 真太郎	西元 義昭
小川 健次	高木 一之	二藤 敏則
小川精機株式会社	高橋 康雄	野田 正登
沖野 正則	高橋 保宏	橋本 晃啓
奥田 健志	瀧口 尚子	橋本 司
越智 安雄	武居 勝敏	早坂 正樹
貝淵 貴志	竹井 光子	林 正夫
垣内 孝雄	竹内 秀二	林 通明
兼田 忠典	田崎 伸夫	原田 恒司
紙本 英樹	田中 博隆	平岡 健
木谷 直俊	田中 佳樹	平木 絢子
木村 正勝	谷 一男	広島修道士生活協同組合
木本 厚	谷口 秀則	廣谷 清
清中 智子	種田 奈美枝	深山 英樹
國廣 敏之	玉繁 克明	福井 悦郎
久保田 昌尚	玉繁 隆	福正 貞幸
小栴 克己	田村 克泰	藤井 喬浩

藤井 宏	松岡 計祐	山崎 敦俊
藤岡 健二	松川 理都子	山下 泉
藤田 和彦	松本 修二	山本 恵三
芳西 高志	松本 博正	山本 晴幸
卜藏 健治	三上 ひろみ	柚木 尚美
程川 道彦	水戸 省爾	横田 亘輝
堀越 俊哉	宮田 真治	横山 慎一郎
本田 実	三吉 和宏	吉岡 章
株式会社本通グリル	虫谷 国博	吉田 眞治
前川 恒策	本原 仁志	吉田 博喜
前反 正文	森 智昭	吉村 達裕
前田 聡	盛井 浩	米田 邦彦
前田 輝美	森本 弘道	鎌和 館
栴田 健一郎	八木 美樹	和氣 泰臣
松井 恵治	柳瀬 良隆	渡部 貴皓
松井 健治	矢野 泉	渡邊 崇
松江 由紀	山肩 康則	渡辺 隆弘

〈匿名〉66名様

寄附金のお申し込みについて

学校法人修道学園 創始300周年記念 新体育館建設事業寄附金

広島修道大学の更なる発展にける思いをご理解いただき、新体育館建設事業寄附金募集に格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募集期間 2022年6月1日～2026年3月31日

募集単位 1口5,000円 2口以上
※1口未満のご寄附もありがたくお受けいたします。

新体育館建設事業寄附金
お申込みはこちらから



広島修道大学 寄附金

グローバル教育充実支援、地域連携・地域貢献支援、スポーツ・文化活動支援、災害等による家計急変学生支援を目的としています。本学の教育理念、教育目標をご理解いただき、より一層のあたたくいご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

広島修道大学寄附金
お申込みはこちらから



特別寄附(使途特定)

広島修道大学後援会	¥10,780,000
「食堂棟北側広場改修工事」に係る経費として	
広島修道大学会計人会	¥400,000
広島修道大学同窓会	¥400,000
株式会社アーネスト	¥360,000
広島フェニックスライオンズクラブ	¥50,000
〈匿名〉1名	¥1,000,000

現物寄附

修経会	河津桜1本 梅1本
広島市農業協同組合	広島県産豊平あきさかり「バックごはん」9,900個
〈社名のみ〉Yamamura Associates	

学校法人修道学園教育振興基金

株式会社エデュース	¥400,000
-----------	----------

広島修道大学寄附金

三上 貴教	¥855,000
奥田 健志	¥60,000
田中 博隆	¥10,000
直井 小百合	¥5,000
宮田 秀雄	¥5,000
〈お名前のみ〉井田 憲和、入江 みどり	
〈匿名〉8名	計¥225,000

留学生教職員給付奨学金

竹井 光子	¥60,000
宮崎 康子	¥48,000
柚木 尚美	¥36,000
住田 敏	¥36,000
岡原 重則	¥24,000
王 瑋	¥12,000
〈お名前のみ〉James Daniel、藤原 聡子	
〈匿名〉21名	計¥671,000

2023年度にご寄附いただきました方のご紹介につきましては、「TRUTH」2024年夏号に掲載させていただきます。

EVENT

■教育懇談会

教育懇談会では、教職員による個人面談を行い、成績や学生生活について保証人からの相談や要望に対応しています。

開催日	開催地	会場
9/16(土)	本学	広島修道大学
9/23(土・祝)	松江	ホテル一畑
9/30(土)	岡山	サン・ビーチOKAYAMA
10/7(土)	山口	山口グランドホテル
10/14(土)	松山	ホテルマイステイズ松山
10/28(土)	福山	福山ニューキャッスルホテル

＜本学の教育懇談会について＞(内容、時間などは予定)

10:00～11:10	会長・学長挨拶、学生体験談他
11:20～12:10	学部別説明会他
12:20～13:10	昼食会
13:20～15:00	個人面談
＜本学以外の教育懇談会について＞	
11:00～12:00	説明会
12:10～12:55	昼食会
12:55～14:15	個人面談

■「修活!」オープンキャンパス

第3回オープンキャンパスを下記の日程で開催します。

8月20日(日)10:00～15:30(受付9:30～)	本学にて
登録制	無料送迎バス有 駐車場有

2022年度 広島修道大学決算

広島修道大学の2022年度決算を公表しました。

詳細は本学WEBサイトでご確認ください。



アンケートにご協力ください。

「広報誌TRUTH」および「本学広報」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。いただいたアンケート内容は今後の誌面作りおよび広報活動に活用させていただきます。

また、アンケートでプレゼントを希望された方の中から、抽選で修大オリジナルグッズをプレゼントします。

アンケートは以下のURLもしくは2次元コードからWEB上にてご回答ください。

<https://ws.formzu.net/dist/S37802161/>



PRESENT 計20名
修大オリジナル
クリアホルダーブック

抽選で20名様に「修大オリジナル
クリアホルダーブック」をプレゼント!
応募締切:10月31日(火)

※当選はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

